

PHD LETTER

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

PHD LETTER
Volume
137
2018.3

公益財団法人PHD協会
2017年度会報137号

2017年度研修生が帰国、彼女たちが第一歩を踏み出します。



PH 2017年度研修生レポート

お世話になった皆さまへ感謝を込めて、2017年度研修生のレポートをお届けします。

PHD LETTER Volume.137

Contents

- P.2-6 2017年度研修生レポート
 P.2-5 2017年度研修生レポート: タンタンミエ、デフィ、ミスラ
 P.6 「ネパールの山村から…ミスラ」
- P.7-8 **PHD Movement** vol.20
 インドネシア健康コンテスト
- P.9-10 **特集** 東南アジア・変わりゆく生活と健康 vol.2
 ミャンマーにおける口腔衛生活動の取り組み
- P.11 Oneyear 2017年度国内研修生1年を振り返って
 P.11 **PHD SAVE NEPAL** ネパールPHD研修生里親 第2期募集
 P.12 日々是東奔西走
 P.12 PHD協会国際協力エッセイコンテスト2017報告
 P.13 PHDはモノキフで応援できる団体です
 P.13 退職の挨拶 上石 景子
 P.14 PHD活動紹介 2017年12月～2018年2月
 P.15 PHD News

PHD

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT
 公益財団法人PHD協会

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和 Peaceと健康 Healthを担う人づくり Human Developmentをすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

PHD LETTER 137号

発行: 公益財団法人PHD協会
 住所: 〒650-0003 神戸市中央区
 山本通4丁目2-12 山手タワーズ601
 電話: 078-414-7750
 F A X: 078-414-7611
 E-mail: info@phd-kobe.org
 U R L: http://www.phd-kobe.org
 郵便振替口座: 公益財団法人PHD協会
 01110-6-29688



左からデフィさん（インドネシア）、タンタンミエさん（ミャンマー）、ミスラさん（ネパール）。西日本研修旅行にて。

表紙写真/2017年度研修生 マリア シルヴィアナ デフィさん(左:インドネシア) タンタンミエさん(中央:ミャンマー) ミスラ・マヤ・タマンさん(右:ネパール) 神戸市北野町にて

～ Appropriate Technology ～

温故知新 岩村語録 その12

今までの衛生教育は医療関係者が知っている知識を、ただ村の人々の言葉遣いに直訳して、知っていることを知らない人に教えて上げるという方式でしたが、今からやらなければならないのは、その地域地域に生活の知恵の集積としてある民間療法を掘り起こしながら、その生活の知恵の担い手であり、総合開発計画の推進者である有能な地方の人材に、村の資源を使って、村にある技術でもって健康を高めるに必要な知識、技術を講習するということです。

「出典：共に生きるために アジアの医療と平和（1982）P93」

岩村先生のメッセージを胸にインドネシアで活動していきたい。詳細はP7-8を。(さ)



PHD運動提唱者 岩村 昇先生
 (写真中央)



PHD 2017年度研修生レポート

デフィさん（インドネシア）、タンタンミエさん（ミャンマー）、ミスラさん（ネパール）の研修が、2018年3月をもって修了しました。彼女たちが「先生」や「お父さん」「お母さん」と呼ぶ皆さんから、多くを学ぶことができた一年でした。これから彼女たちは各々のアクションプランを胸に、村の課題解決に向けてあゆみ始めます。先ずはお世話になった指導者と支援者の皆さまへ感謝を込めて、2017年度研修生のレポートをお届けします。

前田 千春=文

35期研修生10月～2月の共通研修

- 生活協同組合コープこうべ 全3回
 (神戸市・三木市/協同組合)
- 防災研修 全9回 (神戸市/防災)
- 神戸常盤大学 全3回 (神戸市/口腔衛生)
- なでしこ歯科 全2回 (神戸市/口腔衛生)
- 旅路の里 (大阪市西成区/釜ヶ崎社会学習)
- PHD協会 (神戸市/行動計画づくり)
- 淡路島モンキーセンター
 (洲本市/残留農業とリーダーシップ)
- こうべ環境未来館 (神戸市/ゴミ減量資源化)
- 布施畑環境センター
 (神戸市/ゴミ減量資源化)

2017年度 研修旅行報告

東日本研修旅行 10月23日～31日

- 東京都 青年海外協力協会(JOCA)、日本自動車総連、ユニセフハウス、ロータリー米山記念奨学会、日本労働組合総連合会、勝楽寺、アーユス仏教国際協力ネットワーク、地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)
- 山梨県 山梨英和中学校(YWCAひまわりクラブ)、山梨YMCAグループ
- 長野県 塩尻めぐみ幼稚園、日本キリスト教団 松本教会
- 神奈川県 こどもの広場もみの木クラブ
- 岐阜県 ソロプチミストかかみ野、日本キリスト教団 中濃教会
- 愛知県 小牧幼稚園

西日本研修旅行 1月13日～26日

- 鹿児島県 かごしま有機生産組合、出水高校、だるま保育園、薩島小学校、出水民泊プランニング
- 熊本県 水俣病センター相思社、エコネットみなまた、ほっとはうす、菊池恵楓園
- 福岡県 アジアを考える会 北九州、北九州市環境ミュージアム、旭ヶ丘会館、祝町小学校、日本の歌コンサート、到津の森公園
- 山口県 梅光学院高等学校、岩国みなみワイズメンズクラブ、岩国YMCA国際医療福祉専門学校
- 広島県 広島平和記念資料館、共生庵、みらさか小学校、灰塚コミュニティセンター、数信みのり保育所
- 岡山県 赤磐市中央公民館、せとうちYMCA 学童保育うのクラブ

PH 2017年度研修生レポート

ミスラ・マヤ・タマン
ネパール / 19歳

ミスラさんの出身村であるタクレ村は山の上にあり、お店も軒しかないため、自分たちで食べるものは自分たちで作ります。近年では中国から輸入した農薬を使用した農業が徐々に普及してきました。ミスラさんは「有機農業研修」や「西日本研修旅行」、「淡路島モンキーセンター研修」を通して、農薬による健康被害について学習しました。今後のタクレ村の人たちの健康や未来を心配したミスラさんは、農薬を使わずに土着微生物を活用した農法について、また、植物自らの生育する力を引き出す農法について学びを深めました。

タクレ村に戻った後は、農薬を使用せず、土壌と作物そのものもつ本来の威力を発揮させる自然農法を取り入れた有機農業に取り組みます。そして、村の人たちに農薬による健康被害や有機農法について伝えていくことが目標です。

11月～3月末の研修

寺田まさふみさん（豊岡市／野菜・米・加工品）
三木市総合保健福祉センター
（三木市／保健衛生） 滞在：藤田潤一郎さん



「たくさん農薬は体に良くない、農薬を使わない農業を村に広めたい」（神戸市中央区北野町にて撮影）



愛媛県松山市中島の泉さん（右）より、無農薬栽培について学ぶ。



広島県三次市末継さん（左）・一井さん（右）のお宅にて、ネパールの村では降らない雪と記念撮影。（西日本研修旅行にて）



「農薬を使わない農業をしたい」

私の村のみんなはのうぎょうを
しています。私の村は山の上
だから自分たちでつたさいを
自分たちでたべます。いろいろな
にちゅうごくからはいってきたの
やくをかけています。のうやくは
けんのためによくないとだれも
いらなから。私は日本にきて
からゆぎのうぎょうのことをた
べましょうしました。まず、はた
けにもみからをまいて、くま
でかきまぜるとうちのなかに
あるびせいぶつがもみから
をたべてたべましょうとこども
をうまえてたべましょうとこ
どもをうまえてたべましょうと

は、どんどんおおきくなるとき
は、まずをやらなるとはたけ
のつちはかんをうしてはたけ
のうえのほうはかんをうして
からやさりはまずかまほしい
ときに自分のねっこをのぼして、
まずをさがしてげんきになっ
ていきましょう。こののうぎょう
のことはネパールの山の上のほう
でもできるとおもしろい。この
のうぎょうを村にかえてから
みんなにおしえて、いっしょに
つたさいをうまえて、つたさい
をうまえて、つたさいをうま
えて、つたさいをうまえて、つ
たさいをうまえて、つたさいを
うまえて、つたさいをうまえて



寺田まさふみさんと和美さん（右二人）のご自宅で昼食をごちそうになるミスラさんとタンタンミェさん（左二人）



寺田さん（右）からタマネギの苗の植え付け研修をうけるミスラさん（左）（2017年11月 兵庫県豊岡市寺田農園にて）

PH 2017年度研修生レポート

「ネパールの山村から…ミスラ」

寺田 まさふみ

「ただいまっ」と荷物をかかえ元気な声で、玄関に出迎えた僕の脇をすりぬけ家に駆け込むミスラ。9月の研修から3ヶ月足らずを過ぎて、再度研修のために訪れた秋の日のこと。徐々に実家に帰省した娘のよう、コロッとやられた。

9月の最初の研修では秋冬野菜の作付けの時期にあり、畝立てや整地から大根やかぶの種まき、ブロッコリーやカリフラワー等の定植、また稲刈りや籾すりなどの機械作業も経験してもらった。二度目の11月は、9月に作付した野菜の収穫と配送、大豆の収穫、納豆の仕込みなどあわせて2週間足らずここで過ごした。家では台所に立ち、ネパールの漬物「アチャール」を手際よく作って食べさせてくれた。

ミスラは上手な日本語で、作業の合間に村の様子や家族のことなどあれこれ話してくれるおしゃべり好きな18歳。とても厳しいお父さんのもとで育てられたと言う、10人兄妹の末っ子のミスラ。「お父さん怖くない？」の問いに、「どうして自分のお父

さんが怖い？」と。ひるむ事もなく日々の水牛の世話や畑仕事をはじめ、家事をこなすミスラの姿を想像した。「この服はお姉さんに教わって私がつくった」と、洋裁の腕前も確かなもの。「日本の教育とは一体何だろう・・・」、頭をよぎる。行き過ぎた便利さと過度の情報社会のいま、自然に触れその中で育まれるであろう五感を研ぎ澄まし、知恵として生きてゆく力を養う、そんな場面がどんどん減ってきている私たちの暮らしを思った。機械依存にある農の現場もまた然り。「生きる力を養う事こそ、教育の原点ではないのか」、亡き指導者大森さんの言葉が頭をめぐるミスラとの時間だった。

新興国として経済成長に沸く他の研修生と比べると、かの大地震からの復興途上にあるネパールの状況は僕の想像を超える困難があふれているに違いない。ミスラの暮らすジャミレの村は、道路などのインフラの整備もまだこれからという状況にある。一見豊かな自給的な暮らしの一方で、待ったなしに押し迫る貨幣経済の現実

ミスラは何を選びどこに向かうのか。薪やかまど、牛やニワトリにかこまれて過ごした自身の原体験と重ねつつも、凝縮されたPHDの多様な研修の1年を終え帰国後踏み出すミスラの歩みを、永く見守りたい思いと祈りであふれる。

黒目がちな澄んだ眼の奥に秘めた芯の強さを持ちながら、うっかりすると知らぬ間に懐にもぐり込んできそうな末娘らしい愛くるしさをあわせ持つミスラ。「ただいまっ」の余韻が今も耳の奥で響く、娘がひとりふえたよう。



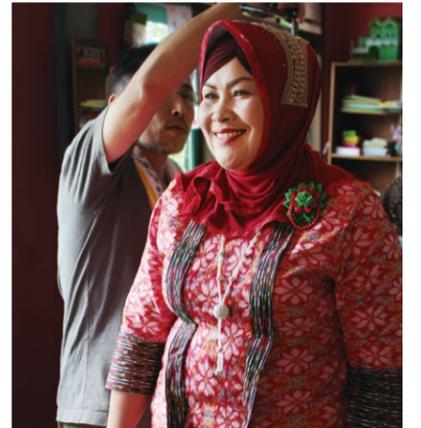
2017年9月と11月の2度、ご自身の農園にて、ミスラさんの研修を受け入れていただいた寺田まさふみさんにご寄稿をお願いいたしました。



お母さんたちの健康体操「Senam Lansia」(インドネシア・西スマトラ州タランバブゴ)



上/タランバブゴの元PHD研修生たちと記念撮影。
右/BMI(肥満度を表す体格指数)を計測中のタランバブゴの女性
(2017年9月インドネシア・西スマトラ出張にて)



PHD Movement vol.20

インドネシアでLombaKesehatan! ～岩村先生が提唱された「現地の風習と近代医療の融合」の実現へ～

前号のPHD Letter Vol.136で喜多野医師から【インドネシアで「お大事に!」～インドネシア往診で感じたこと～】と題して医療事情を報告していただいた。その中で現地で課題となっている生活習慣病を改善するための「健康コンテスト」に言及されている。その後、研修生たちとも協議を重ね、「健康コンテスト」の今年の夏の実施に向けて動いているので報告する。

「村の人は元気」という坂西の思い込みと反省

岩村先生がネパールで活動されていた約50年前に比べてアジアの村の病気は減り、栄養面でも向上していると思っていた。いや、確かに向上はしている。岩村先生のフィルムに出てくるような栄養不足で病気になるに死に至る子どもたちは激減している。しかしながらそれで健康の問題が解決した訳ではない。文字化すると当たり前すぎて恥ずかしいが、PHD協会が大切にしていることの一つに「現地の風習や文化の尊重」という価値観がある。例えば食事の改善に

おいては「日本で勉強した研修生たちがまずは自分の家、次に近所の人に広めてくれたらいい、日本人が外から栄養面の知識や正論を押し付けることはない」と考えていた。尊重の部分は今でも大切にしたい価値観ではあるが、今のままじわじわと抜けていだけでは健康という大目標に届かない。岩村先生が言われた「現地の風習と近代医療の融合」が必要な時だということを喜多野医師の往診によって強く感じる事ができた。

「正論は人を動かさない」

小見出しはPHD協会の研修のコンセプトの一つである。研修事業を実施し、研修生がその成果を地域に持ち帰ることで地域を良くしていく、ということを30年以上実施してきた。つまりPHD協会は村の人の行動変化を求めている。しかし、帰国した研修生たちは様々な壁にぶち当たってきた。栄養面の重要性や歯磨きの必要性をいくら声高に語ってもそれで人が動くわけではない(もちろん少数ながら正論で動く

事務局長 坂西 卓郎=文 ～分かち合い実践録～

人もいるので、知識を伝えるのが重要ではないと言っているわけではない。むしろボディブローのよう伝え続けることは重要)。よって、行動変化を促すためには正論だけでなく、楽しさやある種の欲求、こうなりたい、こういう状態が気持ちいいという環境を作り出す必要がある。そうでなければ短期間の変化はあっても継続しない。それほどまでに人は今までのルーティンに縛られており、それを繰り返す傾向が強い。行動変化が容易ではない、ということはこれまでに研修生たちと苦悩してきたことである。

水俣のものづくりマイスター制度

話は飛ぶが水俣市に「環境マイスター」という制度がある。水俣にある農作物やせっけん、和紙などを環境に配慮して作った人々をマイスターとして登録表彰しようという制度である。周知のように水俣は水俣病で有名となった。地域の人は「水俣病の水俣」生まれを誇ることができない。そこに地元学は切り込み、自尊感情や地域

への誇りをもう一度持てるようになることで「ここに生まれて良かった」と思えるような地域づくりを目指した。ものづくりマイスター制度もその一つで、認められると水俣市から表彰される。地元学の提唱者吉村哲郎氏は「役所は紙を出すだけでいい。こんな簡単なことはない」と言っていたが、今まで地道に農業をしていた人々からすれば市に認められ、表彰されるというのは極めて嬉しいものであったようだ。それが自尊感情を高め、ひいては地域への誇りにつながる(地域の誇りに関しては別の取り組みもあるが紙面の関係で割愛する)。何が言いたいかと言うと承認欲求は強く、行動変化につながる可能性を秘めているということである。

女性100人規模の健康コンテスト!

既述の「正論」、「誇り」そして「現地の文化」の3つを融合させたのが「健康コンテスト」であると思う。今のイメージではこうだ。

1. 女性100人のBMI等を計測
→ 結婚後、家にこもりがちで肥満率の高い40～50代の女性を対象としてBMIや体脂肪率などを計測し、その数値を競う。日本であれば恥ずかしくてできないが、村でプレテストした際は大盛り上がり。その結果が翌年以降の基礎データにもなる。
2. 予選を勝ち抜いた人にユニフォームを進呈

→ 村の人たちはユニフォーム好き、かつ承認欲求を満たせるような文言を入れる。そのユニフォームを着る人が増えていくことが健康の証明にもなり、周囲への関心を惹くことにつながる。

3. 優勝者には家事の助けになる洗濯機や掃除機をプレゼント。

→ 承認欲求プラス単純に嬉しい!

上記に加え喜多野医師のミニレクチャー、子どもたちによる歌や踊りなども計画されていて、今も研修生たちが試行錯誤中である。

当会では常々「正論」、「誇り」、「現地の文化」の3点を考えており、〇〇をしない、ということに気を遣ってきた。例えば「現地でネガティブなフィードバックをしない。ポジティブなフィードバックをする」、「正論を押し付けない」、「現地の文化を否定しない」という「～しない」だ。しかし、今回は上記3つを踏まえて「～する」というアイデアが生まれた。健康コンテストは「優秀者に誇りを与え」、「正論を頭ごなしではなく、楽しみながら伝えることができ」、「競争好きな村の人たちの風習を踏まえて」いる。研修生、喜多野医師とともに相談しながら作り上げている最中であるが、研修生たちも口々に「健康コンテスト良い」と言っており、喜んで準備を進めている。個人的には上記の「～し

ない」から「～する」という変化は大きなブレイクスルーであると感じている。今までの蓄積が実になりそうというか閉塞感を打ち破ることに繋がると期待している。

国レベルでも重要な取り組みに?

インドネシアでは2014年にアジア最大規模の国民皆保険制度(JKN)がスタートしている。JKNは貧困者向けとそれ以外の二種類に分かれ、貧困者は自己負担不要である。その対象は約1.1億人と言われている。全人口が2.6億人なので半数近い。貧困者も費用の心配なく医療を受けられるのは良いことであると感じるが、今後心配なのは医療費増による国家財政への負担である。経済産業省によると2010年と2016年を比較するとインドネシア保健省の予算は3倍に増えている。健康コンテストは予防の取り組みである。喜多野医師が言われるように将来的には地域を超えて波及することも期待したい。

実施は今年の夏の7月を予定している。場所はデフィさんの小学校だ。初回であるので、成功するかどうか不安はあるが、研修生と共に作り上げ、地域を巻き込んでいきたい。

同行などご興味のある方はぜひ事務局までご一報下さい。



ミャンマー・マンダレー近郊ウーインリー村の小学校で歯ブラシ指導をする高藤先生。

特集 東南アジア・変わりゆく生活と健康 vol.2

REPORT :

ミャンマーにおける口腔衛生活動の取り組み ～ 活動報告第二報 今後の対策と展望 ～

高藤 真理 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科講師

前号の～活動報告第一報 現地住民の口腔衛生に関する状況について～に続き、今回は今後の対策と展望の一案を挙げたいと思う。

はじめに

村の住民にむし歯や歯周病が多いことは、前号の報告の通りである。朝1回の歯磨きを習慣としている者が多く、それが原因の一つでもある。しかし、ただ単に「歯磨きをあまりしないからむし歯や歯周病になってしまいます。だからもっと歯を磨きましょう」では、根本的な解決にはならない。何より、それだけの説明では、これまでの生活習慣を変えることは難しい。

住民にむし歯や歯周病が多いという現状

を受け止め、なぜそのような状況に至っているか原因を模索することが、口腔衛生向上を目指す活動の第一歩である。そして、問題解決を進めるには、村の文化や慣習、経済的背景を考慮した、「口腔（こうくう）の健康の維持・増進」を目指す対策を実施しなければならない。

村の歯科医療事情

日本のように、「むし歯があります。歯周病になっています。だから歯医者さんに行って治療をします。」は、村では通用しない。なぜなら、村の中に歯科医院がない。街にはあるが、物理的な問題（距離）や経済的負担から、通院は容易ではない。

また、口腔の健康について、その情報

が十分ではない。つまり、口腔の健康についてその重要性を知る機会がない。

これらを背景に、口腔疾患の増加や憎悪が起こっても、口腔衛生に関する習慣は変わらないのである。

口腔衛生問題の解決に向けて：対策

1. 人を育てる
村の口腔衛生指導者を育てる。研修生が、村の住民に対して口腔衛生に関する教育を実施する。また、住民の口腔衛生の管理を行う。
2. 情報を渡す
村の住民に口腔衛生の重要性について情報を伝える。なぜ歯磨きが必要なのか、いつ磨けばよいのか、むし歯や歯周病は

どのような病気なのか等、住民が口腔衛生に関する知識を増やすことで行動変容につながる。

口腔衛生向上が口腔の健康の維持・増進につながる：展望

村の歯科医療事情を考えると、むし歯や歯周病に罹患している<成人～高齢期>の住民については、現状維持を図ることが最善策であろう。一方、<乳幼児期>の子どもたちは、低年齢からむし歯が多い状況であるが、乳歯から永久歯に生え変わるという事実を利用して、一生使用する永久歯を将来に向けて守ることができる。乳歯の重度のむし歯は、永久歯に影響を及ぼすことを考え、これ以上むし歯を増やさない、悪くしないということを目指すべきであろう。

つまり、ライフステージごとに口腔衛生向上の目標設定を行い、口腔の健康の維持・増進を図ることが必要となる。世代交代が進む長期的な時間の流れに、口腔衛生問題の解決策も一緒に進めるということである。予防という概念を少しずつ定着さ



YMCA 幼稚園にて園児の口腔を検査。(ミャンマー・マンダレー近郊タインシェ村)

せ、未来を担う子どもたちが村を背負う大人になる頃には、むし歯や歯周病に罹患している住民が減少することを期待したい。

さいごに

口腔衛生に関する調査を実施し、私の一番の懸念事項は、「子どもたちのむし歯の多さ」である。「むし歯の多さ」という事実が気になった訳ではない。乳歯が崩壊している3歳前後の子どもたちが調査対象の中で少数派ではなかった。乳歯が生え揃うのは3歳前後であるが、その前に重度のむし歯のため歯が崩壊し、噛み合わせる歯がない。十分に噛むことのできない歯は、成長に必要な栄養を摂取することを阻害する。私は、口腔内の現状を見て、これからのミャンマーの社会を担う子どもたちの成長に不安を覚えた。

あらゆるライフステージで健やかに過ごすことのできる口腔を作ることは、未来を担う子どもたちの成長を守る。口腔衛生の向上を次世代につなげながら、「口腔を通した全身の健康の維持・増進」を研修生とともに村に根付かせたい。



高藤真理(たかふじまり)
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科講師
口腔保健、災害・防災、経営教育に携わる。兵庫県
の口腔保健センター、病院で歯科衛生士として勤務
後、現職。世界の無歯科地区の口腔保健、被災地の
口腔保健について活動を行っている。



One year
二〇一七年度国内研修生一年を振り返って

研修担当
よしむら ふゆ
吉村 芙優

PHD協会で過ごした1年で私自身や自分の地域を見つめ直すことができました。PHD協会は私が大学で研究してきた国際法とは正反対と思える、草の根レベルの国際協力を行う団体です。しかし、ここで勉強するうちに、草の根の活動と私の研究分野は正反対のものではないと気付きました。村や地域などでの小さな活動が、やがて国や国際関係に変化をもたらし、両者は繋がっているのだと実感しました。また、研修生と過ごす中で自分の地域について考える機会も増えました。来日当初の研修生は「日本は何でもあって便利だ」と言っていました。それが最近では「街の人は隣に誰が住んでいるのか知らない、それは良くない」と言って、彼女たちの地域にある素晴らしいものに気付くようになりました。私の町は大阪の都会で騒々しい場所ですが、良いところも沢山あります。私も彼女たちのように、いつか自分の地域に貢献できればいいなと思います。様々なことを経験し、学ぶ機会を与えてくださったPHD協会職員の皆様、また日々PHD協회를支援してくださっている支援者の皆様、1年間ありがとうございました。

PHD SAVE NEPAL

ネパールPHD研修生里親 第2期募集

ネパール大震災から約3年。今もなお被災地で奮闘する研修生たちをサポートいただける里親を募集しています。詳細はPHDのホームページをご覧ください。

坂西 卓郎=文

ネパールPHD研修生里親制度

里親 1年間1口 50,000円より募集 → 研修生 1年分活動費 250,000円(5口分)

第2期として募集するのはランマヤさん、ムクさん、カンチさんの3名になります。1口5万円。ご興味のある方は事務局までお問合せ下さい。



カンチさん 2015年度



ムクさん 2014年度



ランマヤさん 2012年度



妊婦検診に従事するランマヤさん(写真左)

研修生活動費の目安は年間給与として、2万円×13ヵ月。(伝統祭祀の際の支給賞与を含む。)管理費はPHD協会負担。

日々是 東奔西走
研修担当 前田千春

「大志を抱いた
小さなデフィさん」

MISタベ小学校で先生の仕事をしているデフィさん。135cmの小さな体と、いつも穏やかな笑顔の中には、「いつかMISタベ小学校の校長先生になる、そして小学校を公立学校にする。」という大志を抱いています。

MISタベ小学校の校長先生であり、PHD協会の短期研修生でもあったニニスさんが亡くなったのは2017年6月、デフィさんが日本に来て2カ月が過ぎた頃でした。MISタベ小学校では放課後にニニスさんと教育について語り合いながら、いつも一緒に学校中の戸締りをしていたというデフィさん。「ニニスさんから日本での研修の話をたくさん聞いて、私も日本で勉強したいと思うようになった。」と語るデフィさんは、ニニスさんから研修についてのミッションを与えられるほど、ニニスさんの教育にける思いを強く引き継いでいます。

「デフィさんとMISタベ小学校のこれから」

MISタベ小学校で校長先生になるためには、大学院で修士課程を修了しなければなりません。帰国後はMISタベ小学校で「おもしろい授業」をするなどの教育改革に取り組みながら、いつかは大学院への進学を考えています。ニニスさんの残したMISタベ小学校をどのような小学校に進化させていくのか、デフィさんの帰国後の躍進が楽しみです。



デフィさん(右端)とMISタベ小学校の生徒たち。(2016年9月撮影)

PHD協会 国際協力エッセイコンテスト2017 受賞者発表

「国際協力と〇〇のコラボ」をテーマに募集いたしましたエッセイの中から有識者による審査会で厳正な審査を重ねた結果、受賞作品が決定されました。たくさんのご応募をいただきありがとうございました。

八木 純二=文

- 👑 PHD賞 「国際協力と日本の伝統工芸品のコラボ」
近藤 涼子さん 愛媛大学
- 👑 兵庫県婦人会館ユネスコ基金賞
「小さな願いと大きな夢—国際協力とあなた自身のコラボ—」
原田 梨央さん 武庫川女子大学
- 👑 審査員特別賞
「国際協力×日常生活—ちっぽけな自分にもできること—」
又吉 麻菜美さん 桜美林大学

- 優秀賞 3名
「可能性をすること」小仁井 茅春さん 立命館アジア太平洋大学
「食育から考える国際協力」三島 はるかさん 九州大学
「世界を色とりどりの形で」笠原 健志さん 兵庫教育大学

- 入賞 9名
「国際協力とスポーツのコラボ」綾部 勇太さん 神戸学院大学 「未来への扉を開く—映画で出会う新しい世界—」新山 沙樹さん 神戸市外国語大学
「笑顔の大切さ」遠藤 響子さん 大阪女学院大学 「国際協力×写真」多島 優加さん 関西学院大学 「音楽オリンピック—音楽×国際協力」穂積 瞳子さん 慶應義塾大学
「国際協力・開発分野の団体が活躍する学生を主人公とした、ストーリー性重視で、若者中心に国際問題啓蒙へと「間接」的につながるアニメを作る!」久保井 颯太さん 学習院大学
「国際協力と犬猫のコラボ」清水 愛子さん 北九州市立大学 「国際協力と観光のコラボ」前野 恵太さん 神戸学院大学 「本当に必要なものとは」白石 汐音さん 神戸市外国語大学



タイ・スタディツアーに参加した原田梨央さん



審査員特別賞を受賞した又吉麻菜美さん(写真右)

PHDはモノキフで応援できる団体です。

モノキフは、あなたの「思い」と「持ち物」を活かした「あたらしい寄付のしくみ」です。お預かりした品物を、オークションサイト「ヤフオク！」に出品。売り上げから、あなたが決めた寄付額を、サポートしたい団体にお渡します。



STEP1: 思い出の品物のご送付

一度、PHD協会までご連絡いただくか、モノキフまで直接ご連絡ください。

モノキフでお受け取りできる品物の例です。ブランドバッグ・小物類、腕時計、ブランドジュエリー・アクセサリー、ダイヤモンド・宝石類、金・プラチナ等金属類、ブランド衣類、カメラ・レンズ、楽器、高級筆記具・ブランド食器、着物・帯、電化製品・PC類、絵画・掛け軸・骨董類など、お気軽にお問い合わせください。

STEP2: 寄付先団体・ご寄付の割合を選ぶ

寄付先にPHD協会をお選びください。「販売額を全額寄付する」/「販売額の一部を寄付する」など、寄付率をお選びいただくことができます。



STEP3: ヤフオク!にて販売。指定の割合を寄付

モノキフはオークションサイト「ヤフオク！」にて販売を行うため、最終の販売金額までご確認いただけます。

「モノキフ」は寄付控除の対象です。

八木 純二=文



モノキフ



あなたの思い出を、だれかの未来に寄付しよう。
TEL:078-231-2318
FAX:078-231-2355
mail:info@monokifu.com
https://www.monokifu.com

モノキフの詳細はこちらから。

退職の挨拶

かみ いし けい こ
上石 景子

2年前、PHDの職員面接にて、「私は団体の役に立ちたいのではなく、団体での経験を自分自身のために活かしたいんです」と、今思えば突拍子もない、生意気なことを言って、しかしなぜか拾ってもらえて、PHDに入職しました。入ってからは怒涛の日々でしたが、ご縁に恵まれ、PHDファミリーの輪の中で、研修生や支援者の方々の笑顔を見ると、心が満たされていくように感じました。そうして積み上げてきたPHDでの出会いや経験は間違いなく今後の礎になると思います。特に、2年間で一緒に過ごした研修生は6名全員が女性だったということもあり、もともと大学院でジェンダーの研究をしていた私は、これから女性支援に携わってきたいという想いを強くしました。母親になり子どもを育てていく

女性たちが自分自身の地域や国、その中での役割について真剣に考えることの重要性を肌で感じる事ができたおかげです。この度体調不良により退職することになり、悔しく、そして寂しく思いますが、自分自身と向き合う機会を与えられたのだと思います。また、NGOという利他的な組織だからこそ、使命感や志の前に、自分自身の健康や心の余裕、周りにいる大事な人たちのことを想う大切さも痛感させられました。PHD協会を通じて関わってくださった皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。

2年間ご指導いただき、本当にありがとうございました。またどこかで目にかかれることを心から願っています。



上石景子 (写真左) と研修生 (デフィさん:右)

PHD 活動紹介 2017年11月~2018年2月

- 11月
 - 2日 のぞみ保育園 交流会 (前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 2日 定例スタッフ会議 (坂西・八木・上石・前田)
 - 3日 今井鎮雄 初代理事長 召天日
 - 4日 本野一郎さんを送る会 (坂西)
 - 6-7日 NGO相談員会議(石巻) (坂西)
 - 8日 篠山ロータリークラブ例会 (上石・デフィ)
 - 8日 大阪国際大学 講義 (坂西・ミスラ)
 - 9日 和田山ロータリークラブ卓話 (上石・タンタンミエ)
 - 9日 NGO-JICA協議会NGO側CDN準備会合 (坂西)
 - 10日 川西ロータリークラブ例会 (上石・タンタンミエ)
 - 10日 関西学院大学: NGO相談員 (坂西・ミスラ・デフィ・吉村)
 - 10日 ワンワールドフェスティバルForYouth 運営委員会 (坂西)
 - 12日 日本文化セミナー (上石・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 15日 洛北高校 交流会 (前田・デフィ)
 - 15日 小野加東ロータリークラブ例会 (上石・ミスラ)
 - 15日 NGO-JICA協議会 CDN会議 (坂西)
 - 17日 元JICA職員向井一朗さんをしのぶ会 (坂西)
 - 17日 CDIC杉本さんヒアリング (坂西)
 - 18日 スタディーツアー合同説明会: NGO相談員 (上石・坂西・吉村)
 - 21日 北条ロータリークラブ卓話 (上石・ミスラ)
 - 22日 兵庫県立国際高校 交流会 (前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 22日 NGO-JICA協議会 CDN会議 (坂西)
 - 23日 こうべ小学校ふれあいフェスタ: NGO相談員 (前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 24日 NGO相談員宮田さん来訪 (上石)
 - 25日 伊丹ロータリークラブサンクスギビングパーティー (上石・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 27日 神戸NGO協議会 (坂西・上石)
 - 27日 PHD運動提唱者 岩村昇 召天日
 - 28日 明石城西高校 交流会 (前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 28日 アジア保健研修所 ダリットとして生きる (坂西・八木・上石・前田)
 - 29日 NGO-JICA協議会 CDN会議 (坂西)
 - 30日 N連スカイ会議 (坂西)
 - 30日 NGO-外務省定期協議会 (坂西)
- 12月
 - 1日 定例スタッフ会議 (坂西・八木・上石・前田)
 - 2日 浜地先生・高藤さんと口腔衛生研修に関する協議 (坂西・前田)
 - 2日 青少年会館団体利用登録更新説明会 (上石)
 - 4日 ソシオ・プロダクツ菊池さん来訪 (坂西)
 - 4日 NGO-JICA協議会 CDN会議 (坂西)
 - 5日 大和証券 (坂西)
 - 5日 多文化セミナー打ち合わせ (上石)
 - 6日 岩崎さん来訪 (坂西)
 - 7日 エッセイコンテスト審査会 (坂西・上石)
 - 7日 NGO-JICA協議会 CDN会議 (坂西)
 - 7日 ワンワールドフェスティバルForYouth 運営委員会 (坂西)
 - 8日 Hyogon Meet Up (坂西)
 - 8日 ワンワールドフェスティバル出展説明会 (上石)
 - 9日 大学コンソーシアム大阪 講義 (坂西・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 10日 神戸YMC A街頭募金 (前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 11日 兵庫県ユニセフ協会評協議会 (坂西)
 - 13-16日 インドネシア出張 (坂西)
 - 13日 国際協力に関する卒業論文対応: NGO相談員 (上石)
 - 14日 NGO-JICA協議会 (坂西)
 - 16日 小野加東ロータリークラブ クリスマス例会 (上石・ミスラ)
 - 16日 SDGS設立イベント (坂西)
 - 17日 ミャンマー関西 ロヒンギャ問題とは何か (八木)
 - 18日 水野理事長と面談 (坂西)
 - 18日 理事・役員懇親会 (坂西・八木・前田・上石・中西・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 19日 タイ・スタディーツアー事前授業 (上石・前田)
 - 20日 篠山ロータリークラブ クリスマス例会 (上石・デフィ)
 - 20日 HYOMIC会議 (坂西)
- 20日 N環タスクフォース会議 (坂西)
- 22日 定例スタッフ会議 (坂西・八木・上石・前田)
- 23日 ワンワールドフェスティバルForYouth (坂西・上石・タンタンミエ・デフィ・ミスラ・吉村)
- 23日 川西ロータリークラブ クリスマス例会 (上石・タンタンミエ)
- 23日 ESDカフェ (八木)
- 25-27日 アクションプラン合宿 (坂西・前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ・吉村)
- 27日 PHD協会 大掃除 (全員)
- 28日 N環会議 (坂西)
- 28日 神戸マツダ様 自動車寄贈 (坂西・前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ・吉村)
- 29日 中野班 (丹波市) 餅つき大会 (前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
- 1月
 - 2日 草地賢一 前総主事 召天日
 - 5日 川西ロータリークラブ例会 (上石・タンタンミエ)
 - 6日 計画会議 (坂西・八木・上石・前田)
 - 10日 小野加東ロータリークラブ例会 (八木・ミスラ)
 - 10日 篠山ロータリークラブ例会 (演・デフィ)
 - 10日 NGO-JICA協議会CDN会議 (坂西)
 - 11日 HYOMIC会合 JICA関西西野所長面会 (坂西)
 - 11日 ひょうごん買詞交歓会 (坂西)
 - 12日 神戸親和女子大学 講義: NGO相談員 (坂西・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 18日 NGO-JICA協議会 草の根チーム打ち合わせ (坂西)
 - 20日 兵庫県婦人会館ユネスコ基金 (坂西)
 - 20日 タイ・スタディーツアー事前説明会 (上石・芳田)
 - 21日 ドットジェイピー インターン説明会 (八木)
 - 24日 小野加東ロータリークラブ卓話 (坂西)
 - 26日 外務省TF (坂西)
 - 29日 後藤監事訪問 (坂西)
 - 31日 定例スタッフ会議 (坂西・八木・上石・前田)
- 2月
 - 1日 神戸市シルバーカレッジ 交流会 (前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 2日 関西学院大学高等部 礼拝・講演: NGO相談員 (坂西・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 3-4日 ワンワールドフェスティバル: NGO相談員 (坂西・八木・前田・古寺・タンタンミエ・デフィ・ミスラ・吉村)
 - 5日 神戸NGO協議会 (坂西・上石)
 - 6日 運営協力委員会 (坂西・八木・前田・上石・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 6日 財務委員会 (坂西・八木・上石)
 - 6日 合同理事・評議員会 (坂西・八木・前田・上石・タンタンミエ・デフィ・ミスラ・吉村)
 - 7日 小野加東ロータリークラブ例会 (前田・ミスラ)
 - 7日 篠山ロータリークラブ例会・デフィ送別会 (坂西・デフィ)
 - 8-9日 外務省NGO職員受入研修 (中西)
 - 8日 ワンフェスユース監査 (坂西)
 - 9日 西脇指導者会 (前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ・吉村)
 - 10日 国内研修生説明会 (坂西・前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ・吉村)
 - 10日 国際開発支援部門研究会 (坂西)
 - 13日 NGO外務省定期協議会・事前会合 (坂西)
 - 14日 南あわじ市立阿万小学校 交流会 (前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ・吉村)
 - 14日 淡路市立志筑小学校 交流会 (前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ・吉村)
 - 14日 淡路島 交流会 (前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ・吉村)
 - 15日 龍野ロータリークラブ卓話 (坂西)
 - 16日 川西ロータリークラブ例会 (演・タンタンミエ)
 - 17日 川西ロータリークラブIM (演・タンタンミエ)
 - 18日 サマンタ・インドのダリット女性たち一國連での活動、コミュニティでの闘い (八木)
 - 18日 加東市連合婦人会 (前田・タンタンミエ・デフィ・ミスラ)
 - 19-28日 タイ・スタディーツアー (坂西・前田・芳田)
 - 21日 ひょうごんNPO塾セミナー (八木)

PHD News

2018年度PHDスタディツアーのご案内

◆PHDスタディツアーに参加しませんか!?

2018年度もPHDでは、スタディツアーを企画中です。変わりゆくアジアの国々、ミャンマー、ネパール、タイの3カ国に向かいます。コミュニティの課題に向き合い奮闘する元PHD研修生に会いに行きませんか?現地では日本語を話す元研修生がツアーに同行、より深くアジアの今を知ることができます。ご参加をお待ちしています!



2017年度ミャンマーツアーではマンダレー近郊シェグニの僧院を訪問。ここには内戦によるシャン民族の戦災孤児たちが、僧や尼僧として暮らしています。

予定訪問国 ミャンマー：8月下旬（予定） ネパール：9月上旬（予定）
タイ：2019年2月下旬（予定） 各ツアーの旅程は詳細が決まり次第、順次発表させていただきます。

◆書き損じ・未使用ハガキは

PHD協会まで!

外貨紙幣（特にネパール、ミャンマー、インドネシア、タイ歓迎）、使用済み切手*も集めています。ご家庭でご不要になったものがありましたら、どうぞPHD協会までお寄せください。よろしくお祈りします!!

【使用済み切手の切り方に関して】

切手の隅から、1cm弱の余白を残して、ハガキや封書から切り離してください

書き損じハガキ等集計報告（11月～1月末）

書き損じ・未使用ハガキ	1,780枚	101,533円
未使用テレフォンカード	15枚	7,500円
使用済み切手・外貨コイン		96,145円
外貨紙幣		17,351円
未使用切手		121,303円
		343,832円

*集計、換金が終わった分のみ掲載しています。

聞いて欲しいこと

○月×日のPHD協会

職員 八木 Youtubeの耳掃除動画。取れそうで取れない、緊張と解放、約10分でエンタメの全てがあります。見だすと止まらないそうで既に200本以上を視聴した強者。おススメ。

国内研修生 吉村 4年ぶりに身長が伸びた。171.1cmから171.3cmに。22歳、成長期はまだ終わっていないよう。また頼まれごとが増える。嬉しくない。

職員 上石 退職まで車の事故を起こさずすんだこと。何度もぶつけたものの人にはぶつけず。「私だったらやりかねないので奇跡。もう運転しません。」

職員 前田 タンタンミエの肌がきれいなこと。お菓子ばかり食べ、かつ野菜嫌いののに不思議。タナカ効果?

職員 坂西 4月から職員8人体制に。PHD史上最大規模?平均年齢もぐっと上がり、坂西の年齢も再度下から2番目に。肩身の狭い日々が続く。

以上、食べるのが早い順 (Second Round)

2018年度 来日報告会のご案内

下記のとおり、2018年4月上旬来日予定の36期研修生たちの来日報告会を行う予定です。1年の学びへの抱負、村での生活の様子などを発表させていただきます。お誘いあわせの上、ご参加ください。

日時： 2018年6月2日(土) 14:00～16:00

場所： 神戸市内予定。お手数ですが、PHD協会事務局までお問い合わせください。

Tel: 078-414-7750 (PHD協会事務局)

資料代: 300円

2017年度35期研修生の来日報告会の様子。まだまだ日本語で上手く伝えられないことも多いですが、一生懸命に村の課題や日本で学びたいことを話ってくれます。



BE KOBE

PHD協会は阪神・淡路大震災20年を機に生まれた「BE KOBE」の理念に賛同し、神戸を拠点とする団体として誇りを持って活動してまいります。

編集協力: 桃骨